

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 64 号

病院に勤務する看護師の組織阻害行動と情緒的コミットメント,自尊感情,肯定的気分との関連

(Relation between organizational retaliatory behavior and emotional commitment, self-esteem, positive mood of nurses working in hospitals)

上野 瑞子 (うえの みずこ)

博士 (スポーツ健康科学)

#### 論文内容の要旨

本研究は、病院という組織の中で看護師同士の人間関係の摩擦や衝突が起こり、そのことが要因となって患者に悪影響を及ぼす組織阻害行動を測定する尺度開発を目的とした。調査は A 県内の病院 8 施設に勤務する看護師 1,439 名に自記式質問紙調査を実施した。因子分析の結果 1 次因子を「無気力」「技量不足」「身勝手」の 3 因子、二次因子を「看護師組織阻害行動」とする 3 因子二次因子モデルのデータへの適合性を構造方程式モデリングで検討した。結果、観察項目 20 項目の 9 項目が削除され 11 項目の 3 因子二次モデルの看護師組織阻害行動尺度の適合度を検討したところ、 $\chi^2=445.270$ ,  $df=41$ ,  $CFI=0.922$ ,  $RMSEA=0.098$  と良好であり、看護師組織阻害行動尺度の因子構造モデルの側面からみた構成概念妥当性は実証的に検証された。

次に以下の仮説を設定し、データへの適合性を検討することを目的とした。①情緒的コミットメントが低い回答者は組織阻害行動をおこしやすい②自尊感情が高い回答者は、組織阻害行動を行いやすい。③肯定的な気分が低い回答者は、組織阻害行動をおこしやすい。

看護師組織阻害行動の因子である「無気力」「技量不足」「身勝手」を従属変数とし、その一次要因を情緒的コミットメント、自尊感情、肯定的気分とする因果関係モデルを構築し、構造方程式モデリングを用いてそのモデルのデータに対する適合性を検討した。その結果モデルがデータに適合し ( $CFI=0.945$ ,  $RMSEA=0.049$ ) 組織阻害行動を低下させる要因に着目する必要性が示唆された。